

君津市「文化のまちづくり市税1%支援事業」

「新たな貞元地区文化の創造」

ていげん
貞元まちづくり

No 10

発行 平成25年 3月31日

編集 貞元地域まちづくり推進委員会

君津市上湯江 1287-1

貞元コミュニティセンター内

TEL 0439-52-8030

貞元の自然に気づく探検・貞元各地区点検
パネル展示とアンケートの集約結果

昨年、10月20日に、千葉大学院近江屋一朗研究員の指導のもと、貞元小学校3～6年生、保護者、当委員会を対象に実施した「貞元の自然に気づく探検に」についてのパネル「貞元コレクション」を研究員が作成してくれました。

このパネルを、いままでに貞元各地区を点検したパネルとあわせて、昨年12月1日～12月20日の期間、貞元小学校校舎間の連絡通路に展示し、児童からこれらのパネルを見て、感じ(思った)ことへのアンケート調査を実施しました。

その結果について、今後のまちづくりに活用していきたいと考えています。

アンケートのまとめ

- 貞元地域全体について、どんなことを感じましたか(思いましたか)
 - 自然(緑、田んぼ、畑等)がきれいですばらしいこと。自分たちの知らない場所が多くあった。
- 自分の住んでいる地域について、どんなことを感じましたか(思いましたか)
 - やはり自然について、多くの児童が感じているように、田舎の特長にもふれられています。
- 貞元コレクションについて
 - 参加した人
 - ただ、見るだけでなく、におい、味、音など、いろいろな点から地域を見たことで、多くの発見、体験ができたようです。
 - 参加できなかった人
 - 参加してみたかった人が多いことは、このような体験は必要なことと考えました。
- 学んだこと(歴史、社会、地理等など)と貞元地域について
 - 貞元コレクションの体験、パネルを見て、いろいろなことを知り、自然を守る大切さ、歴史を学びたいなど新しい発見ができたようです。
- これからどんな貞元地域にしたいと思いませんか
 - 自然を大事にすることとともに、ゴミ問題に関心が高いのは、やはり地域を大切にしたい気持ちのあらわれと思います。

ご指導いただいた方からコメントをいただきましたのでご紹介します。

○齋藤雪彦先生(貞元地域まちづくりアドバイザー)

- 貞元の子供も達は、自然に囲まれながら生活しているように思うのですが、具体的な自然となると、都会の子供もと同じように普段あまり接触していないことが改めて分かりました。そこで、ワークショップをやって良かったなと感じました。
- 自然と接した驚きや喜びが素直に表現されていて主催者側としてうれしく思いました。
- 「また参加したい」、「参加しなかったが、今度は参加したい」など、ワークショップが楽しかったことが感じ取れ、やって良かったと思いました。
- 貞元コレクションを見ての感想ですが、大人とはまた違う、物事(自然や歴史やいろいろ)を豊かに感じる心が分かり、これからのまちづくりにも参考になると感じました。



○近江屋一朗研究員(貞元コレクション指導)

- 思っていた以上に、子どもたちが貞元の自然や歴史に興味を持ってくれたことが分かり、うれしく思いました。特に、歴史的なことに関して、貞元地区が子どもたちの生まれるずっと前から続いている場所だということを知ることができたことは、地域への愛着をはぐくむ上でも、大切なことなのではないかと思いました。
- 「店が少ない」「イベントが少ない」「田舎だ」という意見があったことにも気を配るべきか、と思いました。
- これらの意見はすなわち、「レクリエーション・楽しみ」への要望だと思いました。それは、都市のように店、カラオケ、ゲームセンターなどを作ったりしなくても、農村地域である、貞元らしい別の方法で達成できるのではないかと考えました。子どもたちの主要な意見である、「自然を守りたい」「歴史を大切にしたい」ということを軸にしながら、「楽しい・遊びがある」地域作りをしていくことが、子どもたちのためになるのではないかと思いました。

これまでの経緯と今後の課題

1. これまでの経緯

- ①むらあるきワークショップ（約3年間）
地域づくりのやる気力アップと地域資源の発掘
- ②地域ビジョンワークショップー地域のビジョン策定
 - ・貞元ブランドをつくる
 - ・地域コミュニティを育む
 - ・自然・緑を活かし、都市との交流を進める
- ③地域プロジェクト策定ワークショップと実施
 - ・貞元ブランドに向けた勉強会（のし餅、キャベツキムチなど）
 - ・子どもの地域探検（2012年10/20実施）
 - ・花の道を造る（江川花の道2011年9月にお披露目）
 その他各部会・組織による活動（もったいない活かそう地域資源、文やっこ農園など）
→活動の立ち上げ期から展開期へと進化。

2. 今後の課題

課題A：点から線・面へ

（まちづくり推進委員会と千葉大との協働）

当委員会は現在、「江川花の道」と「小香花の道」の美化を推進しています。ほかにも各団体がそれぞれに貞元地域で環境美化やイベントを開催して活動しています。

例えば、郡ダム周辺整備と江川上流の美化は、「江川四季の会」が、江川下流の美化では「江川清流会」が行なっています。また、三舟の里案内所の整備は、「三舟の里コミュニティ推進委員会」が、お花見ウォークは「実行委員会」が行なっている、という状態です。

これらの取組みは、JA きみつ直売所を含めて個々には進んではきましたが、それらには相互に関連性がなく、定常的に来訪者が利用するような取組みには至っていない。点をつなげて線・面として、実体化する必要がある

⇒提案

- ①地域で歩いてもらいたい道を検討する
- ②地域の取組み、歩いてもらいたい道を示した分かりやすい「貞元マップ」をつくり、印刷し、君津駅や直売所に置いてもらう。
千葉大でこれまでのまちあるきワークショップの成果を取りまとめ、貞元マップに活かすことも考える。
- ③江川花の道、直売所、郡ダム周辺、里の案内所などに、手づくり（竹や間伐材にて作成）のサ

インボード・案内板を設置し、道しるべとする。

- ④学生、都市住民に実際あるいてもらうモニターツアーを実施、感想や改善点を出してもらう。

（交流イベントの実施）。

- ⑤上記を含めた観光振興計画の作成

提案の実作業

- ① ②③の検討ワークショップ（実際歩いてコースタイムを測り、看板の場所を検討する）や③の看板づくり作業をみんなでやるなどが考えられる。②の貞元マップはみなさんの提案を受け、千葉大で原稿を作成、印刷はまちづくりがする。
- ④は千葉大が実務作業

課題B：これまでのむらあるきワークショップのまとめ（千葉大学で担当）

各地区・各班でバラバラである「むらあるきワークショップ」の成果を、まず地区ごとにまとめ、次に全地区のまとめを行う。これに加え貞元のこれからの方向性について、これまでの5年間の成果を報告書などにまとめる、貞元憲章を作る。⇒要は大きな方向性を確認・共有するモノが必要

課題C：引き続き地域コミュニティを育む

（まちづくり推進委員会と千葉大で協働）

「貞元ブランドを創る」、「花の道を整備する」等は、各部会で自立的に行える目的が立ちつつあるが、「地域コミュニティを育む」は一過性のモノに終わりがちであり、成果が目に見えにくいこともあり難しい課題である。

従って、引き続き、大学生などの参加も促しながら、高齢者の生きがいづくり、地域での居場所づくり、子ども達の遊び場づくりなど、課題を考えるワークショップと、実際の交流を促進するイベントを実施したり、あるいは居場所となる「お茶飲みスペース・小公園」を自分達の手で造ってみる。

おわりに

これまでの取組みを目に見える形でまとめていく段階

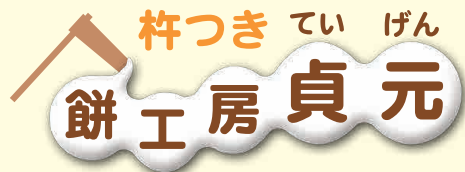
①課題Aなど、これまでの取組みを活かすための+αの作業

②むらあるきワークショップや地域ビジョン、大学のアンケート調査など

これまでにやってきたことを再度、形にしてまとめる⇒貞元憲章、パンフレット作成

（アドバイザーの齋藤先生がまとめた一部を変更させていただきました）

貞元地域まちづくり推進委員会から はじめて自立事業化



貞元ふるさと産品育成協議会 会長／三幣保夫
(旧貞元地域まちづくり推進委員会産業部会) 後援：貞元地域まちづくり推進委員会

千葉県6次化チャレンジ支援事業 地元産品で年中ご賞味いただける創作餅を

協議会は13名で構成、君津市地場産品育成事業及び千葉県6次化産業チャレンジ事業の補助金をいただき貞元地区で生産しているもち米や、貴重な地域資源である栄養価の高い緑葉野菜(長命草、おかわかめ、ツルムラサキ等)を使用して付加価値を高めた餅を製品化、君津市ふるさと産品育成会奨励品の認証マークをいただくことを目標に、JAきみつ味楽園やイベント、人と人とのつながり等を通じてPR販売、高齢者の生きがい、地域の活性化と農工商振興の一助となれるようスタートしました。

自動杵つき機は、最新型の特許製品で、その餅を食べた人からは白でついた餅を思い出すとともに、それ以上に美味しいと評価を得ています。創作もちや若い世代に受け入れられるスイーツとして、又保存できる餅、梅や小糸在来を用いた季節限定の餅、夏に冷やした餅、きみびよんを表示した土産等を商品開発する計画です。



杵つき餅のように、事業がしっかりと、ながーく伸びるよう会員相互の連帯とお客様を大事にしながら進めていく所存です。応援よろしくお願ひします。

商品
一例



※写真と実際が異なる場合があります

ご注文は作業場・FAXで承ります

※漏れ防止のため原則FAXとします。

- 創作餅(長命草・小糸在来・梅・みかん・生姜入り等)
- 祝い餅 ○よもぎ餅 ○赤飯等おこわ類
- 新粉餅 ○賃餅

お問合せ TEL 080-5525-3381
FAX 0439-52-3379 担当／三幣



商品開発の目玉



長命草餅

長命草は、おもに沖縄県八重山諸島に自生するセリ科の植物。

海岸の岩場など、厳しい自然条件の中で自生する常緑多年草。葉がボタンに似ていることから、和名をボタンボウフウという。沖縄では「1株食べると1日長生きする」として別名「チョーミグサ」とも呼ばれている。近年、健康食品として人気のある植物で房総半島にも生息している。貞元で長命草を栽培している農家があることから、地元産品に育成しようと商品開発するものです。



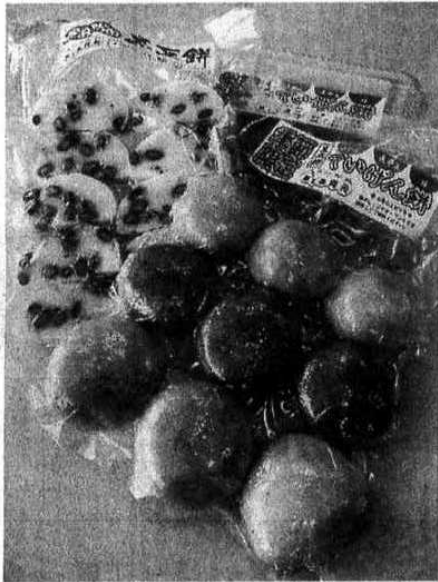
「長命草餅」など3商品開発



長命草餅などを開発した「餅工房 貞元」のメンバー＝君津市郡の同工房

君津市貞元地区の有志 直売所・味楽園(みらい)でつくる「餅工房 貞元」さだもと店で販売を始め(ていげん)が、第1弾。まだ品数は少ないが、弾として琉球野菜の長命草を練り込んだ餅など3つつある大豆・小糸在来商品を開発し、同地区のも今後活用しながら、原

君津の「餅工房 貞元」



みかん、梅肉、黒豆などが練り込まれた餅は見た目にも鮮やか

地元直売所で販売開始

「6次産業」化実現へ

してきた。作業場は同協会の三幣保夫会長(68)にした「ていげん餅」、方の一角に構え、餅つき機など製造機械は県の補助金を一部活用して購入した。

料生産から餅への加工、商品は流通まですべてに携わる「6次産業」化の実現を目指す。工房を運営する「貞元」ふるさと産品育成協議

料生産から餅への加工、商品は流通まですべてに携わる「6次産業」化の実現を目指す。工房を運営する「貞元」ふるさと産品育成協議

られる沖縄県では長生きに効果があるともいわれる。気候的に同市でも栽培が可能のため、第1弾の目玉商品とした。三幣の會長は「栄養価の高いものを自信を持って生産していきたい」と語る。長命草餅とともに販売を始めたのは、みかん梅肉でそれぞれ色付けした餅と長命草餅を黄・ピ

られる沖縄県では長生きに効果があるともいわれる。気候的に同市でも栽培が可能のため、第1弾の目玉商品とした。三幣の會長は「栄養価の高いものを自信を持って生産していきたい」と語る。長命草餅とともに販売を始めたのは、みかん梅肉でそれぞれ色付けした餅と長命草餅を黄・ピ